

笛吹市探訪

笛吹川―名前の由来―(春日居町小松)



春日居町小松地内を流れる笛吹川

笛吹市のほぼ中央を流れる笛吹川。笛吹市という名前は、この川に由来しています。

今回の笛吹市探訪では、春日居町小松地区を舞台に笛吹川と、名前の由来になった伝説を紹介します。

笛吹川の源流は、鶏冠(けいかん)山から流れ出る東沢と国師ヶ岳(こくしがたけ)から流れ出る西沢です。笛吹川は、山梨市、甲州市、笛吹市を通り、鵜沢町北部で釜無川と合流して富士川となり、駿河湾に流れ込みます。

笛吹川(と富士川)は甲府盆地を流れる最大の河川で、大雨が降ると氾濫(はんらん)し、周辺の人々を悩ませてきました。特に明治40年(1907)の大洪水では県下全域に大きな被害があり、笛吹川の流路を大きく変えました。笛吹川は現在の第二平等川(近津用水)の流路を流れていましたが、大洪水以降の河川改修により、現在の流路になりました。

ところで、笛吹川はかつて、「子酉(ねとり)川」と呼ばれていました。川が子(北)から酉(西)の方向に流れていたためです。

子酉川が、後に笛吹川と呼ばれるようになった由来は、ある伝説にあります。

昔、上釜口(かみかまぐち)村(山梨市三富)の子酉川のそばに、笛の名手「権三郎」と年老いた母親が暮らしていました。

天正5年(1577)7月の豪雨で川が氾濫し、権三郎の家は川に流れてしまいました。権三郎は何とか助かりますが、母親は濁流にのまれ、行方不明になってしまいました。権三郎は母親を捜すため、子酉川をいかだで下ります。笛の音が母親の霊を呼び寄せると考えた権三郎は、いかだの上で笛を吹き続けます。しかし母親は見つからず、疲れきった権三郎も川の深みにはまり、流されてしまいました。

数日後、小松村(春日居町小松)の



笛吹権三郎の墓(春日居町小松 長慶寺境内)



笛吹権三郎の像(石和町松本第二平等川に架かる石和橋)

淵で、権三郎の亡骸(なきがら)が見つかりました。

権三郎の亡骸は、長慶寺の円誉長慶(えんよちようけい)上人により手厚く埋葬されました。それが長慶寺にある「笛吹権三郎の墓」です。これ以降、子酉川は笛吹川と呼ばれるようになったと言われています。

現在、笛吹川と旧笛吹川の周辺には、いくつかの「笛吹権三郎の像」が建っています。「笛吹権三郎が笛を吹きながら、子酉川を下り、濁流にのまれた母親を捜した」という伝説があったからでしょう。

笛吹川という名に秘められた悲しい伝説は、激流と戦いながら生きてきた先人の苦勞を物語っています。

皆さんも、「笛吹権三郎の像」を探しながら、笛吹川周辺を歩いてみてはいかがでしょうか。